

静岡理科大学 広報誌



キャンパスニュース

C A M P U S N E W S

2007

1

VOL.31



特集

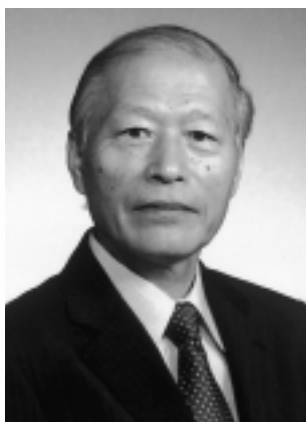
やらまいかエデュケーションサイト
(YES)完成!

学生のサークル活動

SIST LANGUAGES SALON
(語学ルーム)の開設

全日本学生フォーミュラ 大会初参戦!

9月13日から16日までの4日間、エコパスタジアムで第4回全日本学生フォーミュラ大会が開催されました。本学のシストフォーミュラプロジェクトが初参加し、2つの賞を受賞しました。



“夢”のあるはなし

学長 荒木 信幸

新年明けましておめでとうございます。

皆さんはどのような初夢を見ましたか？

米大リーグのレッドソックスに120億円の巨額の入札金と契約金で入団した松坂投手は、記者会見で、「夢が実現した感想は？」と米メディアの記者に聞かれ、「かなわないのが夢。僕はずっとここで投げられることを信じて、目標としてやってきた。だから今、ここにいる。」と夢ではなく目標としてたどりついた場所であることを強調したと伝えられています。

この金額の大きさ、米大リーガーとしての身分、本場のアメリカにおけるプレイなど、どれを取っても、一般の市民にとって、まさしく夢そのものと言える事柄です。確かに、現在の松坂投手にとっては、単なる努力目標であって、日本のエースとしての実力からすればかなえることができる範囲のものであるかもしれません。しかし、横浜高校時代、あるいはそれ以前の時代においては、今回獲得した境遇は、夢の領域であったに違いありません。

最近の若者は、将来への夢を持つことが少なくなっていると言われていています。ぜひ夢を持ってほしいと思います。夢を持つことは若者の特権です。具体的な夢を持ち、それを繰り返して強く思いながら努力することによって、単なる夢から一步一步前進して、手が届く目標に近づいて行くものであると思います。夢、望み、目標は、ニュアンスが少しずつ異なりますが、まず、強くそれを意識することが大切です。

このように望みを強く思うことは、長期的な将来像ばかりではなく、日常的なことに対応する場合も必要なことです。オリンピックの選手が表彰台に乗っている自分を繰り返してイメージしながら試合に望んでメダルを獲得したとのインタビューをよく耳にします。失敗することを恐れて不安に思うよりはるかに有効であったとの話です。

どうか、新しい年を迎えての機会に、ぜひ自分の夢は何かを考え、それを強く思うことから始めてください。

遠州灘

大学生の就職活動は3年の冬から本格化する。この時期、「自分は何に向いているのかわからない」と立ち止まってしまう学生も少なくない。このような学生には、「自分」の殻に引っ込んでいないで、まず対話の場で話してほしいと呼びかける。

日本人は集団で行動するとよく言われるが、日本語に関しては個人的（私的）な性格が強い言語である。英語であれば、対話の場にいるIとyouが、その場にはいないtheyと区別される。これに対し、日本語ではまず「私」か「他人」かを区別し、さらに公の場では「私」、内面を表すときには「自分」で指す。他人の前で「私は…」と語りかけることから社会生活がスタートする。現3年生の健闘を期待し、応援する。

(K)

やらまいかエデュケーションサイト(YES)完成!

(夢創造ハウス・すずよクリエイティブハウス・工作センター・エンジン実験棟)



3年前から、正規の科目として「創造・発見」が始まりました。その多くはものづくりを目的としていますが、活動場所が少なく、すでに手狭になっていた「すずよクリエイティブハウス」や研究実験室などに間借りの状態でした。この建物群の完成によって、十分すぎるほどのスペースが確保でき、思う存分の創作活動ができるようになります。また、エンジン実験棟もでき、毎年行われるエコパでの学生フォーミュラカー参戦にも、グッドタイミングです。既存の施設も含めて、もったいないほどの環境が整いました。将来、技術者のリーダとして活躍する学生たちです。この環境を最大限に活かして、ものづくりへの積極的なチャレンジを期待しています。

(創作ショップ運営委員長 **益田 正**)

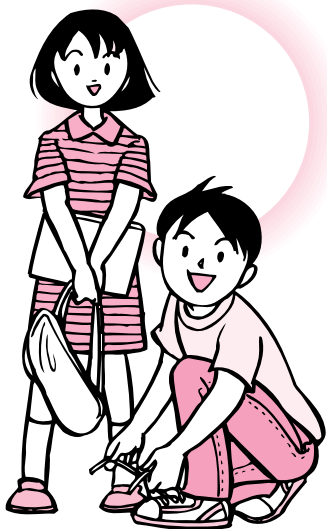
私は、「創造・発見」試行段階から今まで遠隔縦ポートによる佐鳴湖水質調査プロジェクトに参加してきました。この建物ができることに伴って「創造・発見」専用スペースが設けられるということで、工具準備等の時間が短縮でき、1時間半という短い時間をより有効に利用でき、さらに充実した内容での活動ができることを期待しています。

(大学院システム工学専攻2年 **小栗 惇**)

現在、本学ではNHK大学ロボコン、学生フォーミュラ、鳥人間コンテストなどに参加しており、今までは主に「すずよクリエイティブハウス」を中心に活動していました。「YES」の完成によって、今以上に創作活動の環境が整います。これを機によりレベルの高い創作活動が期待できます。今後の活動にご期待ください。

(機械工学科3年 **吉野 拓矢**)

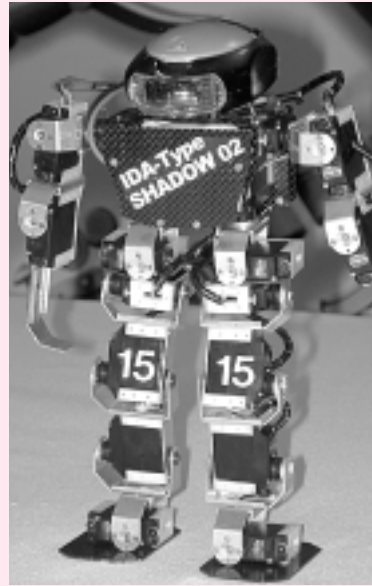
学生のサークル活動



M C F

顧問 益田 正 (機械工学科 教授)

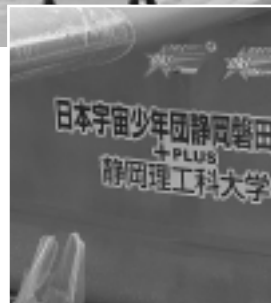
このクラブは第2回生の有志がものづくり活動を目的に設立し、当初はリモコンロボットや省エネカーなどでコンテストに参加してきました。2003年と2006年には悲願のNHK大学ロボコンに出場でき、技術レベルも格段にアップしています。今では技術だけでなく勉強までも先輩から後輩に指導し、両立させながら多くのコンテストに参加しています。さらに地域の多くのイベントに積極的に貢献し大活躍です。学生たちの成長と活躍、ものづくりへの情熱に、感動の連続です。



鳥人間を目指す飛行機研究会

顧問 榎田 勝 (機械工学科 教授)

このサークルは人の力で大空を飛ぶという大きな夢を持った学生が集まって結成されました。新しいサークルなので構成メンバーは2年生と1年生です。鳥人間コンテスト参加は非常に競争率が高く難関ですが、今年は自分たちの手で作り上げた機体で出場を果たすために勉強を進めています。メンバーの知恵を結集して、人と自然、そして科学技術の融和した素晴らしい飛行機を作り上げ、夢を実現してもらいたいと思っています。



シストフォーミュラプロジェクト

顧問 土屋高志 (機械工学科 講師)

全日本学生フォーミュラ大会は、学生たちが企画・設計・製作したフォーミュラスタイルの小型レーシングカーで、デザイン審査・コスト審査・プレゼンテーションを経てスピード競技を行います。今回はエコパスタジアムで大会が行われ全国から52校の参加があり、そこに本校の学生が初挑戦しました。当初から“何か一つでも他校にここが勝っているというところを見せよう”と目標をたて、結果としてトロフィーを2個もらうことができました。これは、多くの難題に果敢に立ち向かっていった学生諸君の努力の賜物だと思います。



機械工学科3年 小笠原祐太

現在部活では、三年前NHK大学ロボコンに出場して以来、ロボットを中心にものづくりに励んでいます。各個人がそれぞれに信念を持ち、日々腕に磨きをかけています。昨年は二度目のNHK大学ロボコンへの出場を果たしました。本番でマシンが動かないという結果でしたが、大会期間中に培った技術や経験をもとに更なる製作に力が入っています。それ以外にも「ROBO-ONE」「マイクロマウス」「マイコンカーラリー」「相撲ロボット大会」などの大会でも着実に成果が上がって来ています。このような活動以外にも、大学の広報活動や奉仕活動、ロボットやものづくりに関するイベントにも意欲的に参加しています。今後もこれらの活動を通して培った技術を後輩に伝え、より高レベルなものづくりに挑戦していきたいと思います。



物質生命科学科2年 曾我仁美

私たちは、毎年夏に琵琶湖で行われる鳥人間コンテストの出場を目標として活動しています。一昨年の10月に公認サークルになりました。昨年の春休みには、ヤマハ発動機のチームエアロセプシーの図面を参考に、翼幅8メートルの大型模型飛行機を完成させました。また、昨年6月に、宇宙飛行士の毛利衛さんが団長を務めるYAC（財団法人日本宇宙少年団）という宇宙および科学に関する教育活動や国際交流などの事業を行っている団体の方と知り合い、YACの作業支援をしました。そして、昨年の鳥人間コンテストでは、YAC静岡磐田分団の方々と一緒に滑空機フォーミュラクラスに出場することができました。14メートルという結果に終わりましたが、実際に飛行機作りを体験し、大会出場という貴重な経験は、私たちの大きな財産になりました。この経験を生かして、今年の大会出場を目指します。目標出場部門は滑空機フォーミュラクラスです。今年は自分達の飛行機で飛びたいと思います。



機械工学科3年 四條 健

SIST Formula PROJECTでは、学生フォーミュラ大会に出場しています。大会でマシンを走らせるには「車検」をクリアしなくてはならず、車検が通らないとエンジンすらかけさせてもらえません。本チームもなんとか車検をクリアし、見事実際マシンを走らせる競技審査に移ることが出来ました。全52校中、総合36位と良い結果とは言い辛いものでしたが、「スポーツマンシップ賞」、「ユニークデザイン賞2位」と、初参加ながら2つの賞を受賞しました！今回初参加ということで他のチームには圧倒され続けていましたが、動的審査では中々良い結果を残すこともあり、次の大会に生かせるような経験をすることが出来ました。次回の目標としては、上位クラスに入るような結果を残すことです。
追伸 毎日「すずよクリエイティブハウス」で活動していますので興味のある方は是非見に来てください！



オープンキャンパス

夏のオープンキャンパスが7月23日(日)・8月5日(土)・6日(日)の3日間行われ、期間中は、高校生・保護者ら541名が訪れました。ナビゲーターとして在学生150名が毎回協力し、未来の先輩たちとふれあい楽しむアットホームなイベントとなりました。



中学生のための実験講座

電気・電子に親しむ若者を増やそうと、本学では毎年8月に袋井市内の中学生に対し電気に関する実験講座を開き、今年で8回目を迎えました。今年は40名の中学生がこの講座に参加し、モータを使った簡単なロボットや電気回路を作ったり、色々な電気の実験も体験し、電気の面白さを味わいました。



市民体験入学

8月27日(日) 本学にて「市民体験入学」を開催し、194名が参加しました。全体講義には、理系作家で空想科学研究所 主任研究員の柳田理科雄さんが「失敗は科学の母」と題して講演を行った後、午後からは、本学教員による10テーマの選択講義を行いました。



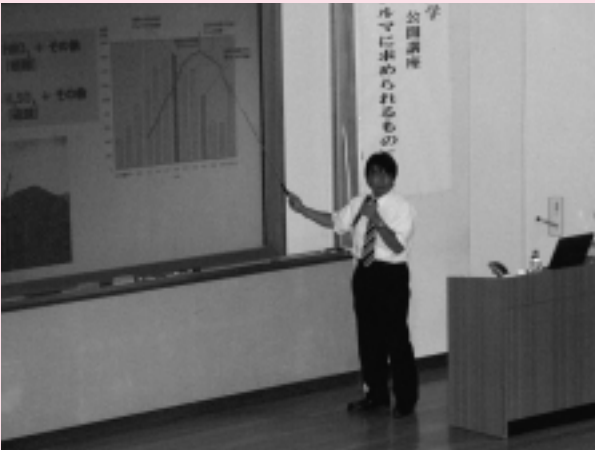
文部科学省サイエンスパートナーシッププログラム実験講座

8月7日(月)から9日(水)に本学物質生命科学科の吉田豊教授および幡野明彦助手が中心となって、近隣高校(掛川東高校、袋井高校、磐田農業高校)と連携して「環境問題と科学」についての実験講座を開催しました。受講した高校生13名は「河川の水質ホルモンの測定」と「クリーンエネルギーとしての太陽電池とその効率化」に関するテーマで実験を行い、9月16日(土)に研究成果の発表会を行いました。会場は高校生の輝く目で溢れていました。なお、今回の太陽電池の実験では京セラ株式会社の援助を受けました。



公開講座

9月30日(土)、10月21日(土)に、本学にて「後期公開講座」を開催しました。1回目は、「心の中を見つめてみよう」をテーマに本学の渡辺知子カウンセラーと静岡英和学院大学短期大学部の磯部隆助教授が、2回目は、「これからのクルマに求められるもの」をテーマに本学の土屋高志講師と静岡県トラック協会 環境対策委員長の西村登氏が講演を行いました。



防災訓練

10月16日(月)に、本学にて「防災訓練」を実施しました。学生、教職員ら313名が参加しました。グラウンドでの消火訓練の後、体育館で消防署職員の指導のもと人工呼吸訓練が行われ、あわせてAEDの使用説明がありました。



大学祭

10月28日(土)・29日(日)の両日、第16回大学祭「SISTIVAL '06」(実行委員長：3年 岡本直樹さん)が開催されました。

テーマは「秋のサイテン」。「サイ」にはお祭、彩り、最高、再会の意が込められ、テーマの通り、みんなで派手に賑やかに盛り上がりました。



出前講座

今年度、本学の教員による「出前講座」が袋井市内の小中学校5校で行われました。袋井市の「大学を活かした学校づくり」事業の一環として、本学教員が小中学校に出向き、空気エンジン作りや熱気球作りなどの実験授業を行いました。



学長特別表彰

右記の学生に対して、荒木学長より学長特別表彰が授与されました。

10月12日表彰

大学院材料科学専攻2年 **高野隆之**
(マグネティック研究会 研究奨励賞受賞)

SIST フォーミュラプロジェクト

(第4回全日本学生フォーミュラ大会 スポーツマンシップ賞・ユニークデザイン賞2位受賞)

12月14日表彰

弓道部男子Aチーム

(第50回東海学生弓道秋季リーグ戦 優勝)

電気電子情報工学科3年 **逸見真太郎**

(第5回がんばる起業応援ネットワークビジネスコンテスト 奨励賞)

情報システム学科4年 **山崎靖晃**

(はままつビジネスコンテスト 特別賞)

留学生の紹介

韓国・中国



張秀智さん 羅民仙さん 江抗抗さん 詹維さん

詹維(ぜんい)さん

私は中国の浙江工商大学から来た詹維です。日本に来てもう1ヶ月ぐらいたちました。今はもうすっかり寮の生活に慣れました。日本の第一印象は静かできれいということです。このみんなはとっても優しいです。今まで一番うれしかったことは大学祭の間にチヂミを作ったり、茶道部に行ったり、いい日本歌を聞いたりしたんです。私は日本の文化に関心が強くいろいろなことを体験してみたいと思います。日本に来てから、一番行きたいところは富士山です。桜花を見ることがありませんから、本当に見てみたいです。いろいろな日本料理を食べました。すごくおいしいと思います。特にたいやきと法多山の団子は一番好きです。でもお刺身は今食べられません。残念ですね。

江抗抗(こうこう)さん

江抗抗と申します。私は中国の浙江省の出身で、日本に来る前は浙江工商大学の二年生です。高校の時、

日本のアニメが大好きだったけど、日本語は全然分かりませんでした。それで、大学に入った時、日本語を専門として勉強しました。今年、交換留学生として静岡理工科大学に来て、本当に嬉しかった。でも、自分の日本語はそんなに上手ではなく、恥ずかしいと思いました。しかし、先生も事務の方も学生も親切で、いろいろなことを手伝ってくださいました。ここで温かい雰囲気を感じました。今はもう大分生活にも慣れました。これからは、一生懸命日本語を勉強したいと思います。みなさん、よろしくお願いします。

羅民仙(なみんせん)さん

韓国の大邱出身で大邱大学校4年の羅民仙です。向こうの大学では会計と日本語を専攻しています。袋井で留学できたことを嬉しく思っています。緑が多く、きれいな自然に恵まれた袋井は勉強するのに良い環境だと思います。袋井の人たちもみんな優しくしてくれてありがたいです。韓国では出来ないたくさんのいい経験が出来て楽しい毎日です。富士山に登ったり、浴衣を着て花火に行ったり、茶道の礼儀も学んだり、町内のお祭りで屋台をひっぱったりしたこと、勉強だけではなく日本の文化に触れることが出来て嬉しかったです。後わずか3ヶ月くらいだけまた楽しい思い出をたくさん作って、韓国に戻ったら袋井での1年間は本当によかったなと思えるくらい頑張りたいと思います。

張秀智(ちゃんすじ)さん

私は張秀智です。韓国の大邱大学校から来ました。向こうでは日本語が専門でした。ずっと夢見た留学生活が始まってもう8ヶ月くらい経ちました。振り返ってみると今までいろんな友たちと出会い、いろんないい経験もできました。その中にもいろんなサークルに入ったのが良かったと思います。茶道という日本文化を経験させてもらったし、軽音楽部として大学祭のとき、歌わせてもらいました。ボランティアでも心が豊かになる貴重な経験をたくさんさせてもらいました。今の留学生活で日本語の実力の成長にも、心の成長もできました。これからもSISTでの大切な思い出を肥やしにして、日本語の勉強をもっと頑張りたいと思います。



* 榊田 勝先生のプロフィール

東京都世田谷区出身。小さい頃から飛行機が好きでパイロットになるのが夢でしたが、中学生のとき近視になり作る方に興味を移しました。力をだす機械が好きで、大学では機械工学を学びました。また、航空部に入り4年間グライダーで空を飛び、そこで大勢の先輩、友人を得ることができました。企業では自動車用ターボチャージャー、ガスタービンなどの高速で回転する機械やエネルギー関連の研究開発に従事しておりました。平成15年に本学に赴任し、昨年からは機械工学科に所属しております。

熱エネルギーシステム研究室

エネルギー問題は私たちの暮らしにかかすことができません。もし、私たちの生活からエネルギーがなくなったら、どうなるでしょうか。また、エネルギーを無駄づかいして地球温暖化が進んだら、どうなるでしょうか。

当研究室は手に持って歩ける程の小型動力源として、超小形ジェットエンジンを応用したシステムの研究をはじめ、エネルギーの有効利用を図るコージェネレーションシステム（熱と電気を同時にとりだすシステム）や環境に優しい熱エネルギーシステムなどの研究を行っています。基礎のしっかりした、創造性豊かな学生を社会に送り出したいと願っています。

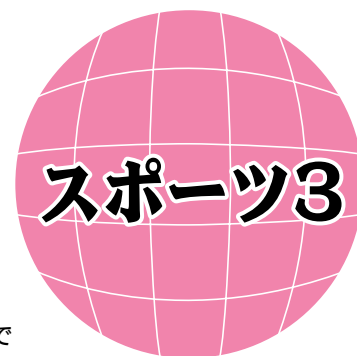
研究室学生からひとこと

成瀬信哉

榊田研究室では熱エネルギーシステムの研究を行っています。研究室には超小型ジェットエンジンやガスタービン発電機などがあり、これらを利用して様々な研究をしています。研究室では仲間たちと協力し、充実した日々を過ごしています。

エネルギー問題は私たちにとって身近な問題です。皆さんも一度この問題に取り組んでみませんか。

授業科目の紹介



スポーツ3は、別名「スキー、スノーボード実習」という冬季集中授業で、1～3年生の学生を対象にした選択科目です。例年3泊4日で菅平高原スキー場にて行っています。昨年度は、スキー約10名、スノーボード約30名の参加者で実施し、スキー3班、スノーボード4班に分け、能力別の指導を行いました。1班10名以下の学生に講師1人が付き、朝から夕方まで個々に合った指導をしていますので、

初めてという学生も、最終日には緩斜面をスイスイと降りてこられるようになります!また、自己流で滑っていた自称上級者も基礎からみっちり講習を行うので、かなり上達して実習を終えることができます。このように、初心者から上級者まで満足してもらえるような実習を心がけています。

また、合宿生活を行うことで、学生の交流が盛んに行われ、特に3日目の夕食後の交歓会では学生同士だけでなく、講師との交流も円滑に行われています。



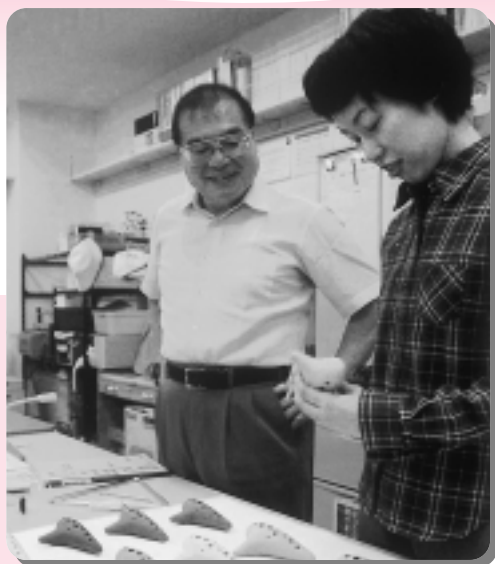
SIST LANGUAGES SALONの開設

語 学 ル ー ム

本学は開学以来、英語教育については習熟度に合わせたクラス編成などを行い学生の英語力向上を図ってきました。こうした中、学部・学科再編の議論で、「英語力の重要性」が叫ばれ、基礎学力の一つとして企業からの英語能力に対する要求は強くなっています。一般的に理工系進学者は英語を不得意としますが、本学には英語（他言語も含めて）に対して積極的に取り組んでいる学生も多くいます。今回、教育棟311教室を全面的に改装し、「SIST LANGUAGES SALON」としてスタートさせることになりました。この施設にはパソコンにTOEIC、TOEFL及び英語検定など英語に関する学習教材、更に韓国語、中国語の自習教材を整備し、学生が自主的に語学を勉強できる自習ブースを5ブース設置しました。また、正課の英語の授業でも利用することにより、より多くの学生が本施設を利用することを期待しています。



スポットライト がんばれ!理工科大学生



大学院材料科学専攻2年
菅野美穂

オカリナの研究に魅せられて

大学3年生の時、志村研究室に配属決定後の新旧顔合わせにプロのオカリナ奏者本谷美加子さんもお見えになっていました。プロが奏でる「生」のオカリナの音色を聴き、「オカリナの音の科学的研究」を行うことを決意しました。

オカリナの材質は「焼きもの」であり、一般的には「信楽」粘土を使用して、900 ぐらいに焼いて製作されます。研究では「信楽」の他に日本各地から集めた4種と韓国から集めた4種の粘土を用いて、さまざまな温度でオカリナを焼成、試作後、本谷さんに吹奏して頂いた音を録音し、波形解析を行っています。また、吸水率や気孔率など粘土の基本材料特性の焼成温度依存性も調べ、「音色」との関係性を調査しています。プロのオカリナ奏者が認める「理想的なオカリナ」製作を目標に、研究に取り組んでいます。既に応用物理学会で6件の発表を行い、テレビや新聞などのマスコミに何度も取り上げて頂きました。昨年春には、本谷さんの韓国コンサートにスタッフとして同行させて頂きました。それぞれの道の「プロ」の方々と一緒に仕事ができる得難い経験は、研究する上で何よりの励みになりました。直接御指導を頂き、仕事に対する熱意、貪欲なまでの探究心を目の当たりにし、研究意欲を掻き立てられました。

「オカリナの音の科学的研究」も節目を迎え、「理想的なオカリナ」の完成が見えてきました。今年1月、オカリナ発祥の地、イタリアでの本谷さんのコンサートで私達が製作したオカリナも使われる予定です。これも、研究だけでなく人間性も鍛えて頂いた志村先生、本谷さんや研究に協力して下さった「プロ」の方々、大学関係者など多くの人に支えて頂いたお陰です。今後は大学で学んだことを糧に、更なる精進に努めます。



株式会社第一システムエンジニアリング

飯坂成喜さん

機械工学科第4期卒業生

私の現在の仕事は、航空機の構造設計業務です。そしてなんと！自分の夢であったアメリカのボーイング社が今の職場です。大半の人が高校、大学を卒業し社会人となっても、自分が将来何をしたいのか？良く分からないのが現状だと思います。多分に漏れず私も同じで、好きな事はあっても将来の明確な目標が無く、何をしたいのかが分かりませんでした。

しかし、大学で就職活動している時に思ったのです。自分が将来明確にやりたい事は分からない、なら少しでも興味のある事をやってみたいと思ったのです。昔から航空機に少し興味があるだけだったのですが、好きこそ物の上手なれです。気がついたら、一度は行けたら良いなが、現実になったのです。

しかし、何をすることも下地は必要です。会社に入ってから今までに様々な問題に直面しましたが、大学時代での経験や学校での幅広い講義が、問題解決の糸口になる事が多かった様な気がします。結果的に、自分の夢を掴めるだけの下地が静岡理科大学にはあったという事だと思います。皆さんも自分のやりたい事を見つけて下さい。

活躍する卒業生

新任教員の紹介



平成18年9月1日付採用
情報システム学科 講師

金久保正明

専門分野：知識工学、人工知能

略歴：芝浦工業大学工学部卒、慶應義塾大学大学院理工学研究科後期博士課程修了。東京工科大学助手を経て、本学講師に就任。

趣味：音楽、歴史、サルサ



平成18年9月25日付採用
機械工学科 教授

仲野 雄一

専門分野：計算力学

略歴：山形大学工学部卒、東京工業大学大学院理工学研究科博士課程修了。相模工業大学助教授、湘南工科大学、鈴鹿工業高等専門学校教授を経て、本学教授に就任。

趣味：水泳、ドライブ、音楽鑑賞

後援会 だより

父母懇談会の開催

10月28日(土)に「父母懇談会」を開催しました。大学祭で賑う中、281名と多くの方にご参加頂きました。全体会では、鈴木晴男後援会副会長並びに荒木学長挨拶の後、パーソナルアシストコミュニケーション代表の稲葉都男氏から「ファミリーサポーターが就職活動を成功させる」と題した講演を頂きました。続いて「学科別懇談会」では本学教員から、学科の教育内容・就職状況等の説明を行いました。午後から実施した「個別面談」には82名の方が希望され、助言教員からの説明に熱心に耳を傾けていました。大学側としても、日頃お話しする機会のない保護者の皆様から貴重なご意見を伺う良い機会となりました。



同窓会 だより

ホームカミングデーの開催

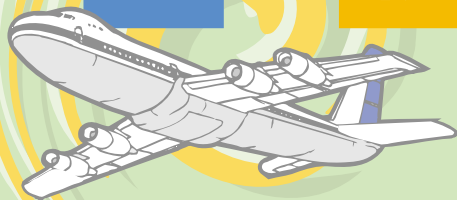
10月29日(日)の大学祭2日目に「第6回ホームカミングデー」を開催しました。

当日は、卒業生やご家族、教職員など約200名の方が参加され、旧友や恩師との再会を楽しんでいました。今回は新企画として、卒業生とそのお子様の写った「笑顔写真コンテスト」を行いました。恒例の大抽選会とあわせおおいに盛り上がり親交を深め合うホームカミングデーとなりました。

なお、今回ご多忙の中にも拘わらずホームカミングデーの企画・開催にご助力いただいた同窓会役員の皆様にもお礼申し上げます。



語学研修



中国

情報システム学科1年 中山貴樹



私は、夏休みの3週間、浙江工商大学（中国浙江省）の語学研修を受講してきました。

内容は、午前中授業、午後は浙江工商大学の学生との交流となっていました。

今回の研修は、自分一人であったため、個別指導となり、通常では徹底できない発音指導も受けることができました。また、留学生宿舎に滞在し地元学生と同じ生活を体験したこと、ものの考え方が日本と違うということを理解することができたように思います。

韓国

情報システム学科3年 相澤英介



昨年の夏休みに3週間、韓国の大邱大学の研修に参加しました。平日は授業をしていました。通常授業以外に、料理教室や歌の授業がありました。毎週金曜日は旅行に行きました。大邱の夏はとても暑く、出かけるときはいつも水を持ち歩いていました。勉強だけでなく、韓国の人々の食事や文化、習慣など日本には見ることのできない様々なことを体験することができました。韓国で過ごした3週間は毎日が充実していて、とても良い経験になりました。

オーストラリア

情報システム学科2年 本多真二



9月4日から2週間、オーストラリア・ケアンズで英語セミナーを受講しました。受けた授業はアクセントの発音練習やリスニング、ゲーム感覚で行なう授業など様々で、ゆっくり丁寧に教えてくれるため分かりやすかったです。宿泊はホストファミリー宅へのホームステイでした。生活時間には少しとまどいましたが、夫妻とも料理上手で快適でした。一般生活ではカタコトの英語にもフレンドリーに対応してくれるため、外国に対する恐さは取れましたが、同時に言葉の大切さを実感しました。

編集後記

今回は特集記事として「学生のサークル活動」を取り上げました。NHK ロボットコンテスト、鳥人間コンテスト、学生フォーミュラ大会への参加など、各団体の活発な活動成果が現れつつあります。また、中国・韓国・オーストラリアへの海外語学研修、スキー・スノーボードを楽しむスポーツの講義など、大学を飛び出した活動が活発になってきました。大学内にとどまらず、学外でも活躍する学生達をこれからも応援していきたいと思えます(T)

静岡理科大学キャンパスニュース
平成19年1月20日発行
企画・編集・発行 / 静岡理科大学広報推進部会
〒437-8555 静岡県袋井市豊沢2200-2
TEL.0538-45-0111 FAX.0538-45-0110
<http://www.sist.ac.jp>